

郷土研究資料 (其の2)

村岡町の自然環境と集落の発達

(5万分1地形図「村岡」参照)

上 治 寅 次 郎

I 緒 言

村岡町は兵庫県美方郡にあり、矢田川の上流湯舟川の流域を占める。近来南方の兎塚村と合併して境域を拡大した。本文に於ては新村岡町の環境と聚落に就いて述べるが、読者は本資料(其の1)を参照されたい。尙踏査不十分の地は後日補遺することもあるべく、多くの資料を提供され得れば幸である。

村岡町は美方郡東部に於ける古代並に近代文化の発祥地として、多大の歓心と呼ぶのであるから郷土の人々によつて調査と研究の行はれることを希望して止まない。特に兎塚古墳群の意味する兎和野台地及周辺の古代文化の研究は全但古代文化史上最も重要であり、村岡を中心とした山名文化の研究は美方郡東部の近世文化史上、研究に値するもの多々ありと信ずる。

I 環 境

1 地形 村岡町の東部には妙見山(1142米)蘇武嶽(1075米)等の山地が南北に連なり、養父郡、城崎郡との境界をなす。西部には鉢伏山(1221米)峯山(760米)等があつて、北方に向つて漸次に低夷し美方町との境界をつくる。境域の大部分は第三紀層の礫岩、砂岩、頁岩より成り、大野の南方及び村岡附近などには浅海性貝類の化石を埋有する。東の郡境をなせる妙見山、蘇武嶽、及び西の町境をなせる鉢伏山、瀬川山、峯山などは輝石安山岩よりなり、第三紀層を貫いて噴出し、第三紀層の山上に高く熔岩を流して居る。

矢田川上流湯舟川は大野の南方標高(460米)の低い分水界大野峠より始つて北流し、福岡に至つて西方より大谷川、東方より八井谷川の小支流を合せ、日影に至つて作山川の溪流、村岡にて谷入川支流を合し、西北に転じて、峡谷を作つて川会部落に至り、小代川と合流する。延長15キロ、

地形上より見れば湯舟川流域の地形には2大特質がある。(1)町域の南部より西部に亘つて台地のあること、(2)北部村岡附近に湖沼の遺跡のあること即ちこれである。

台地は標高400—600米、平均500米の高原をなし、兎塚区域に最も広く、黒田、森脇、和地、高坂、其の他の諸部落を発達せしめ、台地は北に延びて兎和野ヶ原、一二峠、台地(善光寺台地)を形成する。この台

地は村岡古代文化と関係深く、殊に黒田附近から和地高坂に至る台地は北に山を負い南は豁達で日当りよく古代人の集落地として好ましかつた。この文化は美方町にも及んで居ることは本資料(其の1)にも述べてある。

村岡附近の旧湖は湯舟川に沿い凡そ標高250米以下の低地を占めた如く、南は市原の西方に達し、高井、寺河内、大糠、福西、相田、神坂の一部、村岡の一部、鹿田等の区域を占めて居たと想定され、長さ4キロ、巾0.5キロの狭長なる水溜りであつた。これは糶山、寺河内、相田、福西、村岡附近の湖成段丘の跡を見ても知れる。之を湯舟旧湖と呼ぶ。湯舟旧湖は人類の移住し来つて各部落の出来る以前、已に村岡川会間の峡谷の谷底浸蝕の進行と共に消滅して居つた。しかし地形上水の溜り易い状況にあるので、歴史時代にも屢々水災を受けている。寛永元年の水害は村岡厳浄寺に大被害を与え、同12年の水害は福西部落を流失せしめた。これは今を距る320—330年前のことであるが、その前後も水害があり、現代時々発生する水害も記憶に残つて居るのである。

湯舟旧湖消滅後は湯舟川の谷頭浸蝕は進行の度を増し、台地の麓を浸蝕し、宿村方面に於ては山崩地切りなどを生じ、谷に向つて山の斜面が滑落し易き状態をつくる。明治40年頃の滑落は川を堰止して其の欠潰による水害を恐れて下流民は日夜切開につとめたことがあつた。

2 自然通路 他地方から湯舟川の谷への通路は7通路に限定され、それ等の中には難路もあり、古代人には利用されたいが、現代人には利用されぬものもある。

イ、大野峠の道は朝来川平野から八木川を廻り、湯舟川の谷に来る最も容易な通路で、古今を通じて利用され、古代人はこの通路を利用して兎塚に来つたと考えられる。

ロ、八井谷峠の道は大野峠が迂回するので近道として後に出来たのであるが、よく利用された。国道もこれを利用し、福岡より湯舟川に添うて北上し、村岡を経て和田、春來峠方面に通じている。

ハ、妙見峠の道は八鹿町小佐谷より作山を経て、日影に通ずる間道である。

二、金山峠の道は難路であるが、西気谷方面よりの通路である。

ホ、山田越の道は江原、西気谷より村岡に通じ、稍容易なる通路で、相当よく利用され、特に西気方面は往古但馬国府に近く、文化も進みたる関係上、この道はよく利用されたと考えられる。近頃自動車道路もこの道を改修して通ずると聞いている。

ヘ、野間峠、ト、一二峠この両通路は美方町小代谷への通路として古代人にはよく利用され、小代谷への東方文化はこの道によつて移動している。一二峠の通路は現代交通路としても利用されんとし、古今を通じ重要な自然通路なるを合点するに足る。

以上の7通路の中で大野峠—福岡—村岡—和田への線は最も重要で、村岡町の集落の大半はこれを中心として発達した。それと同時に野間峠の通路は利用価値がなくなつた。因に一二峠(はい峠)の名は建武年中用野より市原迄9ヶ村を一分庄、谷入4ヶ村を二分庄とし応永中合併し一二分庄となしたることあり、それより小代より一二分庄に通ずる峠としてこの名の起りとなつた。一二峠は小代—村岡間の通路としては重要である。

Ⅲ 集 落

1 集落の垂直的分布

| 標高(米) | 主 要 集 落 |
|---------|--|
| 500—550 | 大笹 高坂 [※] |
| 450—500 | 中大谷 池平 作山 |
| 400—450 | 口大谷 [※] |
| 350—400 | 大野 八井谷 和地 板仕野 萩山 [※] |
| 300—350 | 黒田 [※] 森脇 [※] 宿 福岡 躰山 [※] |
| 250—300 | 用野 日影 [※] 市原 寺河内 神坂 相田 |
| 200—250 | 村岡 高井 大糠 福西 |
| 150—200 | 鹿田 |

※発祥の古い集落

垂直的分布は鹿田と高坂とに於て 350米の差があり、高坂は560米で最高集落である。小代は最高740米まで集落があるから村岡附近でも開拓すれば更に 200米以上の高処に於ても人の居住に可能であることが分かる。

2 南村岡町の集落 大部分高合にある集落で、弥生式時代から原史時代にかけて集落があり牧農を主としたる相当高い文化が発達して居たらしい。この文化は八木川を遡り、大野峠を経て湯舟川上流の合地に発達した。別宮附近にも当時の文化跡を見る。朝来川下

流は天日槍一族の根拠地であつたから、その文化が伝播したものか、又はそれと関係なく伝はつたか、何れにしても大陸文化の影響のある文化が発達したのと思う。この合地に発達した文化は天津神を崇拝した。そして野間峠と一二峠を越えて小代の一部にも及んだ。信仰の点から考えると、天神文化の後に出雲文化が伝つたらしい。

高坂 は町内最高位置にあり、標高560米内外、氏神高坂神社は貞観年代(約 1,100年前)の創始であると伝え延喜式にも載せられており、天津神を祀る。奈良時代和銅年間(約 1,250年前)に本村は存在した由で発祥は更に古い。口大谷、中大谷、大笹、池ヶ平は高坂の支村である。

和地は福岡、黒田など低き地に比して上方にある意と解する、即ちわ地である。孝徳天皇の末孫西殿奈良時代(1,200年前)にこの地に住んだとの伝説がある。皇太神社は延暦年間の勧請、古利安養寺は元禪宗で鎌倉時代の創始、当時は檀家 500余の大寺であつたが、兵火、真言宗に改宗等のため衰えて昔影はない。境内には古墳、古跡が多く古代の文化の跡を推考するに足る。

森脇は発祥古く、奈良時代の兎と蛇の伝説も残り古墳藪ヶ所にあり、氏神は天津神を祀り、火祭と呼ぶ古式の祭式があつたと伝える。

福岡は元兎塚と呼ぶ附近には古墳が散在する。慶長9年山名禰高移封、築城に及び、元和元年(340年前)福岡と改めたが、寛永19年村岡に移つた。山名氏居城38年間であつた。それでも現今に於ても尙城下街の形態を窺うことが出来る。八幡神社は式内社で天津神を祀る。神照寺は聖武天皇神亀5年(約 1,230年前)の創始、行基の創建の古寺と伝える。八井谷大野は街道に沿い、又は出作りのために生じた部落である。大野には駅伝の馬継場があつたと伝える。(駒継駅)。

黒田は仁徳天皇の頃、但馬国造黒田大連の所領であつたと伝える。思うに養父、城崎方面は水害多く兎塚合地は高燥で安全地として但馬文化の中心となつた時代があつたのでなからうか。奈良時代には行基菩薩も訪れて居り、慶長年中には博多の黒田如水公も閑居し此地に逝去と伝え、森脇に墓ありという。氏神は皇太神社である。

板仕野は兎和野ヶ原の西にあり、郡主神社は境内広く郷一の宮として祀られ、式内社である。源平時代に平氏の所領で平重盛を合祀する。平氏落人多く住み、村内気品あり、繁昌した。相田、神坂、萩山の産神は郡主神社であつた。長福寺址は村の西寺屋敷にあり、治承4年建立の大寺であつたが、住職は小代野間谷の福善寺に移り無住、廃寺となつた。板仕野を訪れる人

々は昔の栄えた跡をどことなく気づかれると思う。

以上の各部落は 500米台以上にあり、古代集落として美方郡のみならず、但馬集落研究上最も重要にして且つ興味ある区域である。因にこの文化は一二峠を越して神場に、野間峠を越して佐坊合地に及んで居ることは已に述べた通りである。

兎塚古墳群 500米台地、就中八井谷、福岡、森脇、黒田、日影より発見されたる兎塚古墳の主要なるものを記載し、参考に供する。其の勢に於て、群をなして集つておることに於て但馬第一とも称すべく、当時の文化の一端を推定するに足るのである。八井谷(横穴式Ⅰ)福岡八幡山(円墳Ⅷ、箱式石棺Ⅰ)福岡八東合(円墳Ⅰ)福岡堅町(横穴石室Ⅰ)福岡兎塚(横穴Ⅰ)森脇魔の谷(横穴Ⅰ、円墳Ⅰ)森脇大寺山(円墳Ⅹ)森脇宮の前(横穴Ⅰ)黒田尾の上神社(箱式Ⅰ、円墳Ⅰ)日影(横穴石室Ⅰ)尙村岡の台地にも古墳発見のこともあり、町の北、旧田公古城址で高堂と呼び、藩士の墓地となり、石棺、土器、刀、鏝しころ等発見、現今も町の墓地となつておる。

3北村岡町の集落北部村岡は湯舟川西岸の低地であつて、湯舟旧湖は住民の住み始めた頃は湖沼は消滅しては居たが、湿地や水害地が多く、古代住民は低地には住まなかつたらしく、今の集落は多くは新しい集落である。古代はただ山麓の稍高い処に部落があつたらしく、村岡町の前身なる黒野村はその一例である。

市原は西方は低いが、部落の大部は標高 250米以上の高い山麓斜面に出来て居る。湯舟川の溪谷が山陰街道の通ずる処となつたので、交通集落所謂街村として発祥した。等余神社は天津神を祭り式内の旧社である。

耀山、寺河内、大糠、高井、福西等の支村の産神で

(292ページより)

ある。稚魚に餌つけをしてから2~3日たつて産草は取除く、こうなつてはもう親魚とは一緒にできないので親魚は別の水槽にでも移すことにしよう。2週間もするとこの池ではもう稚魚だけでも収容できなくなるのでやはり稚魚も分散するようにせねばならない。飼料も最初のインフゾリア、クロレラ等からミジンコのみにしてやればよい(一日3回)。換水は孵化後10~15日に第一回目をを行い以後は10日間隔で実施すればよい。換水の第二回目に不良魚を淘汰する。このようにしてやれば8月の末頃にはどうやら金魚らしくなつて来る。この頃になるとミジンコばかりではなく人工飼料を与えるようにする。これは適当に配合した人工飼料を練り素焼きの平皿にねりつけて水中にひもでつる

ある。

日影は交通集落として発生したが戦国乱世の頃、不貞の徒の往来繁く、移住するものあり、宿村、作山の山地に移り住むに至つた。

村岡は元黒野村といい山麓高所の寒村であつたが寛永19年山名公が福岡より移駐築城に及び、城下街として俄かに発展した。山名公は明治4年廃藩まで230年間6,700石の藩主として旧七美郡を支配した。山名公が村岡藩主となる以前は小代城山に田公城主があつて村岡の尾白山に山城を築き、支配して居たのである。黒野神社は式内社として著名、黒野村は古くからあつたことが分る。厳浄寺、法雲寺、大運寺等は山名公時代に繁盛を極めた。町名に殿町、本町、野々上、西町川上、明治町、御殿山などがあつて、城下街の昔を物語つている。

山田越は古代通路として西気方面の文化地との交通がよく行はれたと見られるが、今は通行する者もない。今後自動車路開通又は国鉄が江原駅に通ずることともなれば村岡は交通、経済の中心として新しく装を更えて新発足をするであろう。鹿田、用野は支村である。荒御霊神を氏神とし素戔鳴尊を祀る。相田、福西、大糠、寺河内、耀山等新村は出雲系の神を祀ること、これ等の多くは低湿なりし平地集落であることなどは台地にある旧村が天津神を祀るのと文化の系統に差異を認める。台地住民は牧を主とした農民で、低地の住民は農を主とした農民で牧を副としたことにも著しい差である。台地の集落に比して低地集落は後に発達し、台地文化の後に低地文化が起つている。この点は小代でも同様である。即ち天津神系文化は出雲系文化以前に発達したと思われる。

してやる。これも一個所ではなく魚数に応じて数か所に入れるようにする。この頃になると給餌は1日2回にするとよい。このようにして又新しい世代の優秀な金魚が生れてくるわけである。

おわりにあつて、はたしてこれだけでもつて飼育ができるかと思われるかもしれませんが飼育管理はなんといつても自分で実施してみることである。そしてその人に合つた方法を考え出して下さい。やはり色々自分自身で実施して彼女等に最も適した方法条件を編みだしてもらいたい。その為にも、もし今ここに私の書いた方法が一助にでもなればと又教育の上の大きな問題を解く一助にでもなれば幸である。

この記事を書く機会を与えられた方々に感謝いたします。

1952年9月